

1 調査日 令和8年1月28日（水）～1月30日（金）

## 2 調査の概要

1月28日（水）

### （1）一般財団法人 小倉記念病院（福岡県北九州市）

一般財団法人小倉記念病院は、日本でトップクラスの心臓治療実績を誇る病院であり、循環器内科や心臓血管外科といった心臓治療を筆頭に、コアブランドとして強化することで、新規入院患者を増やすとともに、地域医療連携や広報戦略にも注力した。その結果、かつての経営難から収益を改善されたV字回復の成功例として、医療経営の分野で注目され、V字回復以降も安定した経営基盤を有する。

滋賀県では、滋賀県立総合病院において、物価高騰の影響等による経営赤字が長く続いていることから、第五次滋賀県総合病院中期計画等に基づいて、収益力の強化や費用の削減、病院機能の最適化などの経営改善に取り組んでいる。

本委員会では、質の高い医療を提供するための県立病院の運営を重点審議事項としていることから、今後の委員会審議の参考とするため、コアブランド診療科を生かした病院経営について調査を行った。



### （2）みちのく夢プラザ（福岡県福岡市中央区）

みちのく夢プラザは、青森県、秋田県、岩手県の3県が福岡市内において共同して運営しているアンテナショップであり、平成11年から約27年間続いている。令和3年に、福岡市内の中心である天神エリアの商店街に拠点を移転し、オープンから累計で300万人以上が来場する西の玄関口として、情報発信や物販等の役割を果たしている。

滋賀県においても、東京日本橋の中心地で情報発信拠点「ここ滋賀」を運営しており、次期運営に向けて、入居物件の再契約交渉等が進められ、費用に対する経済効果や拠点に備えるべき機能、情報発信のあり方等について検討されているところである。

本委員会では、今後の情報発信拠点のあり方の参考とするため、アンテナショップの共同運営等について調査を行った。



1月29日（木）

（3）熊本大学（熊本県熊本市中央区）

くまもと3D連携コンソーシアムは、熊本県に新産業「三次元(3D)積層実装産業」の創出等を目指して、熊本県が採用された国事業交付金を活用し、令和5年4月に熊本大学内に設立された。ここでは、基礎研究が進められているチップ積層型の三次元積層半導体について、その量産化に向けた技術開発を進めるとともに、半導体関連企業等に、新産業への興味を醸成するなど、大学と企業、熊本県の三者の連携を図っている。

滋賀県でも、令和7年度に、熊本大学と包括的連携協定を締結した立命館大学の半導体応用研究センター「RISA」と、半導体人材育成事業を展開するなど、先端分野での官学連携を深化させており、滋賀県内の半導体拠点形成に向けて、企業誘致や産業立地を含めた産学官の連携が求められているところである。

本委員会では、新産業の創出を含む地域経済の活性化を重点審議事項としていることから、新産業の創出に向けた産学官連携の参考とするため、くまもと3D連携コンソーシアムの取組内容について調査を行った。



（4）SHINKA株式会社（熊本県合志市）

SHINKA株式会社では、半導体、医療、液晶関連、自動車、その他産業機器など、精密部品の加工・調達を行っている。創業20周年の節目を迎えた令和5年11月に、熊本県が「半導体産業集積地」としてインフラ整備や企業誘致を進めてきたセミコンテックパーク内に、工場を新設し、本社機能を移転した。

滋賀県においては、令和7年度から産業立地課を新設するとともに、企業の積極的な誘致や集積、新産業の創出等を図るために、企業の産業立地へのニーズや動向の把握、本社機能の県外流出の防止に向けた取組等を進めている。

本委員会では、産業立地を含む地域経済の活性化を重点審議事項としていることから、県主導の産業立地施策推進の参考とするため、セミコンテックパークに実際に入居された半導体企業の有するニーズ等について調査を行った。



1月30日（金）

(5) 知覧特攻平和会館（鹿児島県南九州市）

知覧特攻平和会館は、第二次世界大戦末期の沖縄戦における陸軍特別攻撃隊員の遺品や関係資料を展示し、特攻という作戦の悲劇性や隊員たちの人間性を後世に伝える施設である。また、地元出身の語り部が、実体験や深い知識に基づいて解説される語り部事業によって、命の尊さや平和への思いを呼び起こす場となっている。

滋賀県では、平成 24 年3月に滋賀県平和祈念館が開館し、県民の戦争体験を語り継ぎ、数多く寄せられた資料やその価値を次の時代に伝えるとともに、令和7年度から、「令和の語り部」育成プログラム構築事業を展開し、遺族の高齢化が進んでいく中で、将来の語り部を育成し、戦争の悲惨さや命の尊さを次世代に継承する取組を進めている。

については、戦後 80 年を迎え、戦争体験者や遺族が減少する中、戦争の悲惨さや平和の大切さを後世に受け継ぐ施策推進の参考とするために、同会館の取組内容について調査を行った。



(6) 障害者支援施設 しょうぶ学園（鹿児島県鹿児島市）

障害者支援施設しょうぶ学園は、アートと食を軸に、利用者の「好き」や「才能」を引き出す独自の福祉モデルで、工房・カフェ・レストラン・ホールなどが一体となった複合施設を運営している。単なる支援施設ではなく、「ありのまま」の力を尊重し、地域と共生する「アートル福祉」の先進事例として国内外から注目され、令和 7 年度には糸賀一雄記念賞を受賞した。

滋賀県においても、障害福祉の円滑な推進のため、地域支援体制の充実や共生社会づくりの推進、障害者芸術文化活動支援センターの支援を通じた障害者芸術・文化活動の裾野の拡大、障害者の就労支援を通じた地域生活の経済的な基盤の促進など、多岐にわたる障害者支援を行っている。

本委員会では、将来を見据えた共生社会づくりを重点審議事項としていることから、文化芸術活動を通じた社会参加の促進等の参考とするために、同学園の取組内容について調査を行った。

